

# 山と博物館

第55巻 第7号 2010年7月25日

市立大町山岳博物館



## 夏の思い出

山口 憲夫

「夏が来れば思い出す。」ご存知、エマシヨウコ作詞、ナカタヨシナオ作曲の唱歌である。

夏の午後、ビール片手にこの歌を口ずさみながらまどろんでいると、大の大人が水遊びと称して毎夏興じた沢登りや山釣りの思い出が、はるかな尾瀬の光景や心地良い沢の音とともに甦ってきた：

某年八月、仲間とともに某谷へ入渓、エサ派と毛バリ派に分かれて遡行開始。入山日はそこそこの釣果をあげ、豪勢な焚き火を囲み痛飲。満天の星を眺めることなく撃沈。翌朝、履いたまま寝たサンダルの先が熾き火で溶け出し、足元の熱さで目が覚めた。酩酊状態でも沢に入れば水を得た魚、のはずだったが、大きく渦巻く淵で愛竿片手にへっつっている最中、バランスを崩し深みに流された。引きつった表情を察した仲間が飛び込んでくれ、土左衛門寸前で事なきを得たが、たらふく水を飲み意気消沈。その日は即刻納竿、河原に張ったタープに早々にもぐり込んだ。つめの源頭部は、猛烈なネマガリダケに突入、バテバテ、ヘロヘロでニッコウキスゲ咲き乱れる稜線に立った。

他にも、仲間がハングした滝を懸垂下降中、エイト環がロープで固定されてしまい、立ち往生ならぬ水中往生。土砂降りの雨の中で、必死の救出劇となったことや、沢登りから下山後、大事な周辺部が赤く腫れ上がり、あまりの痒さにたまらず皮膚科へ飛び込んだ。診察した女医は「これは毛虫かぶれネ」と素っ気ない。長時間の敷こぎでチャドクガの毒針毛が衣服の隙間から入った様子。痒さと決まり悪さを同時に味わったことなど、所謂沢やを自認するほどの実力も実績も持ち合わせていないが、酩酊と失態を繰り返した懐かしい夏のひとコマである。

(長野県山岳総合センター所長)

# 山川勇一郎さんとJUBILEEの巻

岳都大町に在る山川勇一郎 峯村 隆

平成六年のこと。山川武さん（東京芸大名譽教授・故人）から、兄・勇一郎さん（以下原則、山川武さん・武さん・勇一郎さん・山川さんとします）の作品を、市立大町山岳博物館へ寄贈したい、とのお話をいただきました。武さんは山川作品の一括寄贈にふさわしい施設を、内々に方々で探し求め、大町山博を選んで下さいました。

山博は、山岳画の収集と展示も重視しておりましたので、有難く意向を受け、同年末、大田区南馬込の武さん宅へ、下見の後、館長と二人して車を飛ばし、頂戴に上がりました。この時、武さんは、作品の所有者は勇一郎さんの次女・小林素子さんであり、自分はただ、まとまった形で恒久的な保存先を心配していただけといった、実弟よりも、姪の後見人としての立場を再三強調されつつ、大町へ発つ作品群を前に、勇一郎さんの人となりや思い出のあれこれを、ぼつぼつと語られました。受け入れた資料は、山にまつわる作品一三九点、愛用のピッケルやスキーなど合わせ、計一七二点。その整理を終え、素子さんから正式にご寄贈いただいたのは、平成七年六月のことでした。

山博はこれを記念し、企画展「山川勇一郎スケッチ展」を、同年秋に開催しました。安井曾太郎に師事し、「第二一回 一水会展」（昭和三四四年）では、会員優賞（最高賞）を受賞する程なのに、「画壇の偉い人」ではなく、山を好み、スキーに興じ、気のおもむくままに旅して、描きたいものを素直に絵に

するような方だと思いました。

深田久弥さんは、『山川勇一郎ヒマラヤ画集』（一九五九）の中で、「育ちのいいせいもあって、おっとりとしてこそセコセしない。先を争ったり、他を押しつけたりはしない。私が前から山川君の絵が大好きだったのは、そういう性格が現われているからである。軽薄やコケオドシのない、誠実なおおらかな絵である」と記しています。

私はこの一文を目にし、私なりの山川作品の魅力に合点がいき、大いなる共感を覚えたものでした。

さらに、平成二二年夏、山博は二回目の企画展、「山川勇一郎の世界 山岳風景と中国の風物」を開催しました。この企画展では、「山に関する作品ではない」ということで、平成六年当初、武さんが遠慮して寄贈予定リストの外に置かれていた、中国の人と風景を描いた作品五五点もお借りし、公開しました。私もじっくり見直し、山川さんの人柄と、画家としての力量を、再び思い知らされた次第です。このうち四八点は、展示終了後の同年九月、作品群の充実を願う山博からお願いし、素子さんよりご寄贈いただきました。



山川勇一郎「暮れ近い窓の灯」  
(水彩・24.0×17.0cm)

山博所蔵の山川作品一八七点は、質・量ともに日本随一だと思っています。正に、大町に山川勇一郎在り。未永く、より多くの方の目にふれることを祈っています。  
(元市立大町山岳博物館学芸員)

## 義兄のこと 山川 朝子

義兄との初対面は、おならが挨拶代わりであった。アトリエで紹介されたのだが、そのとき、義兄は、ただ一言、失敬、とだけ。田舎育ちの私は呆気にとられ、都会の人はおならをしても平然としているものなのかと、妙に感じ入ったことを覚えている。

しかし、その義兄もチリの山で遊び、過ぎ去った歳月もいまや半世紀に近い。義兄は、家ではどちらかというと寡黙。少しシャイな風情をも漂わせた感性の持主で、その辺りも魅力の一つであったかなと思われる。ともあれ女性には甘く、エピソードも数あった。

一見、ヌーボーとした風貌だが、芸大生時代は学内に始めてラクビーを持ち込み、ラクビー部創設メンバーであったと聞いている。山男の体力はその頃から鍛えられていたのか。クレパスで三日間も頑張れたのは当時の基礎体力と無縁ではなかったかもしれない。

山に入り、お財布が乏しくなるとアトリエに帰って絵を描き、お金に換えてまた山へ。家庭人としての点数は、答えに窮する。だが、羨ましい人である。いまだに知人、友人の心中に生かしてもらっているのだから。

遺作も、信濃地の丘に建つ、眼下に広がる街並み、三階の展望室から北アルプス一望。この上ない大町山岳博物館に寄贈させて頂き、早かった死ではあったが、山を愛し、家庭よりも山を優先させた義兄。帰国を前にして「さ

よなら チリ。有難う チリ。」と結ぶ小文を残している。だが、チリの山は帰国を許さなかった。思えば、義兄らしい終焉だったと言えるのかもしれない。  
(山川武家内)

## あの頃から四十数年の時が流れました 日塔 笑子

大森の山川さんのお宅には、北向の大きなアトリエがありました。

そこに安井曾太郎先生がお越し下さって、私の先輩達が絵画の指導を受けていました。奥村博先生（指輪工芸で有名な方。平塚雷鳥姉の御主人）、青鞥社関係で坂本まことさん、奥むめをさんの妹さんの増井さん、田坂乾さん、藤野周作さん、吉田萌子さん、高橋けい子さん方で皆さん大森付近にお住まいでした。山川さんが山にいらしてお留守の時も使わせて頂いておりました。安井先生が来られなくなっても集まりは続き、何時も楽しく裸婦を描かせて頂きました。

山川さんは運転がお好きで、愛車のダットサンで奥村先生をお送り下さる時は、私も便乗して途中で降りて頂いたものです。皆さんを誘ってスケッチ旅行にも連れて行って下さいました。

スケッチに同行しても、私は具合が悪いと風景が描けず、野の花を大事に持ち帰りました。山川さんに「植物採集出来た？」などお声をかけて下さったことを思い出します。

その頃出始めたマジックペンで、味のある素晴らしいデッサンをお描きになりました。人物、風景、花など抜群のデッサン力お持ちの方でした。

もともととお描き頂きたかった方でした。九十歳を目の前にして、なつかしい故人の方々

との御一緒の時を思い出しました。山川さん、有難うございました。

(神奈川県横浜市在住)



山川勇一郎氏遺影  
(昭和40年11月12日、アンデス氷河にて遭難帰幽、享年56歳)

Bushについて

坪田 弘子

一九五六年に創立された女性だけの山の会です。名前の由来は、南極大陸のBush peakからつけました。

私達は年間の目標を冬山合宿におき、冬山を目指して励んでいます。雪のラッセルは厳しく、女性だけの力の足りなさを痛感することもあります。それだけに自分たちの力だけで登頂出来た時の喜びは大きいものです。

岩登り、縦走、藪山、山スキー等と、四季を通して活躍しております。

女性が山を登り続けていく上で壁となる家庭、結婚、生産、育児など、いくつかの問題を乗り越えて、多くの会員が活動しています。

(Bush山の会会員 入会一九六五年)

山川画伯との御縁

山本 久子

当時、山と溪谷社編集長川崎隆章氏の御紹介で、Bush山の会のメンバー数人は、親しくさせて頂いておりました。

深田隊の計画が本決りとなり、手伝ってもらえないかとの打診が山川画伯からメンバーの一人にありました。

その後深田隊長から、食糧計画、梱包など

の御依頼が会にありました。私達は大喜びで「シエルパで良いから、連れて行って下さい！」などと言ってお引受したのです。

有志が交替でお手伝いした内容は、後記の会報からの抜粋をご覧ください。

深田隊が無事御帰国の後、私達のヒマラヤ遠征の企画が始まりました。

深田先生、山川画伯、風見先生、古原先生の御支援がなければ実現出来ませんでした。

外貨枠の難しさ、女子のみというハンデもありました。多くの先輩方に支えられて、日本ですべての女子のみでのヒマラヤ・デオチバ遠征が実現したのです。

一九六十年十月七日、会員二名が登頂しました。五十周年を今年迎えます。

山川画伯との御縁に始まったヒマラヤ以降の私たちBushのその後をお話出来なかつたことが残念です。

(Bush山の会創立会員、元東京都山岳連盟会長、元日本山岳協会副会長)

山岳連盟会長、元日本山岳協会副会長

ジュガール・ヒマール探査隊をめぐって

―未来に託して―

奥川 雪江

「素晴らしい仕事だったと思います。連日の寝不足も疲れも二週間の間思い返すひまもなく進行させました」

食糧の係は山川勇一郎先生です。困苦欠乏に耐えようと仰言つて内容も、身近なしかも合理的なものをバックしましたが現地食も取り入れることを考慮に入れてあるようでした。

計画を伺ったのがやっ和外務省の許可が二日前に下りたという日でしたが、船積迄僅かな日数しかありませんでした。

奇贈を受ける会社への連絡、キャラバン中の暑さや運搬に耐えるバックの方法、段ボール

の大きさ、全食糧の分割梱包方法、毎晩銀座の山映商会で相談し、忙しいその間にも深田先生や他の方達とも山の話に花が咲きました。

食糧が運び込まれるとそれを山川先生はアトリエへ運びます。私達はアトリエの方へ毎晩通うようになり、広い部屋も色々な段ボール箱が積み重ねられ、分類し重量を計り、新しい問題に気がつく議論しました。ゴニ辛の方もわざわざ夜来てバックの方法等相談にのってくださり、浜中さんの家に二晩合宿し、リストの作成をしました。

浜中さんのお宅のダットサンにまだ口の開いたままの段ボールを積み、先生が運転して日通の倉庫へ運び込んで私達の仕事は終わりました。でも、その後もそつと行つて今日はラッカーをかけていた。最終はこんな箱に入られたなんて報告する山の子もいました。

最後にもう一度合宿して細かいリストを作り、カロリーを算出し、元のように静かになったアトリエに伺い、マヨネーズを持って行かずサラダ油等を入れたので、マヨネーズの作り方を先生にお見せしました。ご家族の方と乾杯し、ご無事を祈つて私達の山の歌 *Yes, Mount* を唱い、小山さんは *グリーンデルワルトリッド* を唱いました。

(Bush山の会創立会員)

Bush山の会創立会員

―食糧準備―

二月六日(事務所・山映商会) 初顔合せ。資料コピー。

二月七日(奥川宅) 行動概要打合せ。辰沼広吉氏連絡。

二月八日(事務所) 松田雄一氏(マナスル装備係)にお話しを伺う。物品(主食類)数量検討。

二月九日(奥川宅) 日下田実氏(マナスル食糧係・毎日新聞社)にお話しを伺う。物品数量検討。キャラバン、BC分類献立方法等研究。

(中略)

二月十六日(浜中宅) 段ボール箱に物品詰合せ。汐留丸。通倉庫移送。リスト整理。

二月十八日(丸通倉庫) 物品最終梱包確認。

(中略)

二月二十五日(山川アトリエ) リスト献立カード、事務引継ぎ、先生を送る会。

二月二十八日(東京駅) 「つばめ」出発見送り。

(Bush山の会創立会員)

雲の上の道 ―わがヒマラヤ行カトマンズまで―

深田 久彌

食糧は山川君の担当だった。事務に疎いこのスニツとした画家が、こんな面倒な雑務に追い廻されたのは、おそらく彼の誕生以来初めてのことだろう。彼は自らオンボロ車と称する古フォードを月極めで借りていて、集まってくる食糧をそれに載せてせつせと自宅へ運んだ。彼のアトリエは食糧倉庫に変わった。

食糧はことのほかたくさん、寄贈を受けた。そのたくさんで、こまごました食糧を、区分けし、カロリーを量り、私たちの食欲を考慮しながら変化のある一週間ずつのレーションに仕上げて、その細かなリストまで添えてくれたのは、好日山荘の安田十四郎君と、「ブッシュ山の会」の若い女性たちだった。

彼女たちは山川君のアトリエに通つて、ポサツ

としたアトリエの主人を叱咤しながら、献身的に働いて下さった。マヨネーズはうまいが瓶づめでは重くなる。そこでマヨネーズの製法を委しく山川君に伝授してくれたのだが、こののきな画伯は旅行中ついに一度も私たちにそれを作ってはくれず、彼女たちの好意を無にしたのは残念であった。

「あなたがヒマラヤに行く時には、われわれが食糧係になってあげますよ」「おいしいものをドツサリね」

本当に彼女たちはヒマラヤへ行くつもりでいる。私たちの手伝いをして貰った五人の中の二人は、その後ヒマラヤ貯金をするために、東京の勤めをやめて山小屋の番人になってしまった。

### ジューガール・ヒマール探査隊便り

山川 勇一郎

皆様、其の後、お元気で春山へお出かけのことと思います。(中略)

最奥の部落テンバタンあたりから、石楠花が出はじめました。少し盛りを過ぎていましたが、その樹の大きさ、花の紅さ、登るに従いその大木は見事な花盛りでした。

本当にブッシュの皆様に見せたいと思いましたが。色は真紅、ピンク、白。石楠花と針葉樹の原始林に囲まれた小さい平で、ポトワインを一本あげました。桜草がここ三四〇〇米では花盛りでした。忘れるな!! をあげて拝見しました。アリガトウ!! (中略)

オルゴール随分楽しめました。これからも……。ラクパテンジンが欲しがっています。

(中略) 食事の事、もっと色々御報告する筈なのですが、いずれ帰ってからにしましょう。(中略)

略)

石、十一個忘れません。もっと上へ行った時にとつて来ましょう。(中略)

この手紙に花同封致します。(後略)

四、三〇〇米のベースキャンプにて

### BUSHの皆様

深田 久彌

誕生日のお祝有難う。スボラな山川君が出した忘れたい、五日おくれて諸嬢のお祝を受けました。

オルゴールの'Sur Les Monts' はすっかり覚ええました。氷河の上で歌いましょう。(中略)

山川サーブのあとに続いて一言お礼まで。ヒマラヤのすばらしいことを書き出せばキリがありませんからこれまで。

石を忘れないように山川君に忠告しておきます。一番大事な食糧のお礼を忘れました。有難う。四、一〇〇米ベース・キャンプにて

### オルゴール

安田 実子

深田隊のお手伝いで、一番おつきあいのあったのは山川先生でした。おっとりなさっている先生に、今思うと申しわけないくらいに口やかましく、あれこれ指図してしまいました。ヒマラヤからのお便りにあるオルゴールのことで

一九五七年にフランス山岳会から、マダムジャベルが来日し、日本山岳会の依頼で富士山御一緒しました。この時にフランスの山の歌'Sur Les Monts' を教わりました。

下山後曲の採譜をBUSHのメンバーで国立音大生のSさんに頼みました。オルゴールにしたいとメンバーの数に一つ足して十二ヶを三越で作りました。小さいお人形を入れてお守りにと深田隊にお渡ししました。

私事ですが、この年に深田先生のお仲人で装備のお手伝いをしていたY氏と結婚しました。十二月に横浜港を発ち、三十五日かかってマルセーユに着きました。

山の唄を教えて下さったジャベル夫人の山小屋でお手伝いし、国立スキー・登山学校の聴講生になって、メールドグラスの滑降と若い日の思い出です。一九五九年一月に約一年間のシャモニー滞在を終えて帰国しました。スキーがお好きな山川先生と、どこかで一緒に滑れると思っておりました。あまりにも早いお別れでした。御冥福をお祈り致します。

(Bush山の会 創立会員)

### 雲の上の道 ～ヒマラヤの先輩より～

深田 久彌

昨年私たちがヒマラヤへ出かける時、女性だけの山岳会「ブッシュ山の会」の人たちに、食糧の仕分けや包装のお世話になった。その時私たちが彼女らに言ったものだ。「この次あなたがヒマラヤに行く時には、私たちがお手伝いしますよ」

冗談に言ったのが本当になった。「ブッシュ山の会」の六人が、女ばかりの登山隊を組んで、この夏ヒマラヤに向かって出発する。ここまでことが運ぶには、彼女らの異常な熱心さがあった。(中略)

女だけの最初のヒマラヤ登山隊は、一九五五年ジューガール・ヒマールへ向ったイギリスの三人の女性で、その計画が発表された時、多くの人から反対を受けた。(中略)

そして第五番目がこんどの日本の女性ヒマラヤ登山隊である。私は心からその成功を祈らざるを得ない。

### 山川勇一郎先生のこと

細川 沙多子

もう、遙かむかし50年も前のことですから、おぼろげな思い出です。一九五八年に深田久弥先生、山川先生、風見先生等の個人的芸術家遠征隊が、ネパール・ジューガール・ヒマールへの出発前の準備をお手伝いした時に、お会いしたのが初対面でした。このお手伝いがヒマラヤへの私たちの想いを燃え上がらせたのです。そのご縁で私たちのデオ・チバへ話は進み、一九六〇年に遠征えとごぎつかけました。出発前に食糧の買付けや、援助品を頂きにと、山川先生がデオ・チバ隊のため、色々とおネを見つけて共に廻って下さいました。岡部さんが食糧の担当だったので、山のベースキャンプで面白く話していました。

先生は私たちの知らない面白いお方だったようです。山での食料品の数々を、集めて協力していただいた山川先生に、感謝しながら梱包を開いていたことなど、思い出しております。私たちデオ・チバ隊のあと、一九六五年にアンデスの氷河の遭難をニュースで聞き、おつとりとして静かな方だった山川先生の面影をしのびました。

過ぎ去る年月に、遙かな想いをよせ、私も九十二歳の老婆となりました。

(Bush山の会 創立会員、パ  
ンジャブ・ヒマラヤ遠征隊長)

### 山と博物館 第55巻 第7号

発行 年 二〇一〇年七月二十五日発行  
398-0002  
長野県大町市大町八〇五六一  
市立大町山岳博物館

TEL 〇二六-二二一-〇二二二  
FAX 〇二六-二二一-二二二二  
E-mail:sanpak@city.omachi.nagano.jp  
URL:http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpak/

印刷 大系タイムス株式会社  
定価 年額 一、五〇〇円(送料含む)(切手不可)  
郵便振替口座番号 〇〇五四〇一七一一三三九三